

Catch it!
Seizo Tashima's
Art Adventure



田島征三 ぼうけんのアート展

2022.4.23 [土] → 6.12 [日]

刈谷市美術館 Kariya City Art Museum <https://www.city.kariya.lg.jp/museum/>

開館時間=9:00-17:00(入館は16:30まで) 休館日=月曜日、5月6日[金]*5月2日[月]は開館 入場料=一般1,000円、学生800円、中学生以下入場無料

*身体障害者、精神障害者保健福祉、療育の各手帳所持者及び付き添いの方(1名)は入場無料。入館の際に手帳をご提示ください(ミライロID可)。

*新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策のため、日時・内容の変更、入場制限などを行う場合があります。最新の開催状況を当館ホームページ等で確認の上ご来館ください。

主催=刈谷市美術館、NHKエンタープライズ中部 後援=日本国際児童図書評議会(JBBY)、愛知県教育委員会

協力=アリス館、偕成社、学研プラス、くもん出版、芸術新聞社、現代企画室、講談社、至光社、小学館、大日本図書、童心社、

日本有機農業研究会、鉢&田島征三 絵本と木の實の美術館、ひだまり舎、福音館書店、ポプラ社、ポリム出版社、光村教育図書、理論社

【とべバッタ】原画 1988年 刈谷市美術館蔵





「しばてん」原画 1971年

Catch it!
Seizo Tashima's
Art Adventure

田島征三の展

2022.4.23[土]→6.12[日]

●関連イベント

*イベントの詳細や最新情報は、当館ホームページ等をご確認ください。

① 講演会「絵本のちから いのちの力」

「いのちの気配」をアート作品や絵本づくりに表現してきた田島さんに、自作をめぐって存分に語っていただきます。

4月23日[土] 14:00-15:30 (13:30開場)
会場=刈谷市中央図書館3階大会議室(美術館隣)
講師=田島征三さん
定員=100名(要事前申込) 参加無料
*申込方法は、当館ホームページでお知らせします。

② 学芸員によるギャラリー・トーク

4月27日[水]、5月11日[水]、6月8日[水] 14:00~
*申込不要、参加無料(要展覧会チケット)

③ 刈谷日劇×刈谷市美術館 コラボ企画

映画「絵の中のぼくの村」市内映画館で上映



田島征三のふたごの兄征彦も絵本作家。ふたりの少年時代を描いた自伝的エッセイ「絵の中のぼくの村」(1992年)を原作にした郷愁あふれるファンタジー映画。ベルリン国際映画祭銀熊賞受賞作。1996年公開。©1996 SIGLO

上映期間=4月22日[金]-5月19日[木]
上映時間=劇場ホームページでお知らせします。
料金=一般:1,200円 シニア:1,000円
*田島展と相互割引あり。刈谷日劇で本展入場券(半券も可)を提示すると映画料金が200円引

[刈谷日劇] *名鉄三河線「刈谷市」駅下車徒歩1分
刈谷市御幸町4-208 愛3ビル5F Tel.0566-23-0624
<https://kariyanichigeki.com>

[交通のご案内]



[電車] JR東海道本線・名鉄三河線「刈谷駅」下車、南口から徒歩約10分 *「刈谷駅」はJR「名古屋駅」から快速で約20分
[車] 名古屋方面より=国道23号線(知立バイパス)「一ツ木IC」から約5km *駐車場あり(無料60台)

刈谷市美術館

Kariya City Art Museum

〒448-0852 愛知県刈谷市住吉町4-5
Tel.0566-23-1636 Fax.0566-26-0511
<https://www.city.kariya.lg.jp/museum/>

【周辺情報】

◎本展入場券(半券も可)を高浜市やきもの里から美術館で提示すると、東京造形大学レオナルド・ダ・ヴィンチ再現プロジェクト「ダ・ヴィンチ没後500年 夢の実現展」(4.16-7.10)の当日券が160円引き! ※1枚につき1名1回限り有効。各種割引との併用不可。
◎「伊勢物語とかきつばた」(4.23-6.5) 刈谷市歴史博物館[有料]

デビュー絵本『ふるやのもり』(1965年)から半世紀以上、第一線で活躍する田島征三(1940-、大阪府堺市生まれ)は、いつの時代も革新的で人の魂を揺さぶる表現を追求してきました。

29歳にして『ちからたろう』(1967年)で第2回ブラチスラバ世界絵本原画展金のりんご賞を受賞して以来、田島は国内外の数々の絵本賞を受賞します。しかし、高い評価や人気に疑いを感じ、評価の定まった自己のスタイルを破壊しようとしてきました。また、絵本を手がける一方、絵画を発表する美術家としても活動し、ジャンルに縛られない独自の創作世界を切り拓いてきました。

さらに、近年は芸術祭という新たな舞台と出会い、活動がますます飛躍します。2009年の大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ(新潟県十日町市)では、廃校した小学校をまるごと絵本にする「鉢&田島征三 絵本と木の実の美術館」を開館。2013年の瀬戸内国際芸術祭では、香川県大島に「青空水族館」、その後「森の小径」「Nさんの人生・大島七十年」などの制作を展開。80歳を迎えた今も、絵本の概念を打ち破る表現、そしてアートの可能性に挑み続けています。

本展では、絵本デビュー作『ふるやのもり』をはじめ、『ちからたろう』や『とべバッタ』など代表的な絵本を含む30余冊の絵本原画、さらに油彩画やリトグラフなども加えた270点以上を展示し、その型破りな創作の全貌を紹介します。



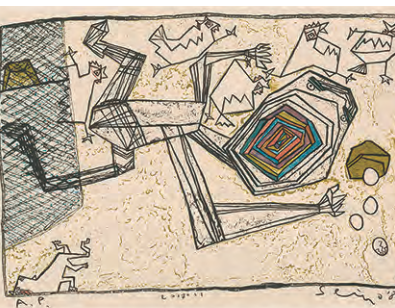
「ちからたろう」原画 1967年 刈谷市美術館寄託



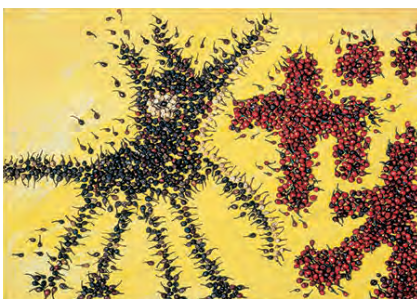
「ふきまんぶく」原画 1973年 ちひろ美術館寄託



「青い山羊」1976年 宮城県美術館蔵



「ほらいしころがおっこちたよね、わすれようよ」原画 1980年



「ガオ」原画 2001年



「つかまた」原画 2020年